

신しい時代 新文化運動と哲学

新しい学問と哲学の誕生

この世には一般的常識や科学では納得できない不可思議な出来事が少なくない。

日本でも知られているスプーン曲げのユダヤ人の超能力者ユリーゲラーが、韓国でも念力でスプーンを曲げたことがあった。その中で最も驚くべきことは、掌に乗せた大根種を指先でもみ出して僅か数秒にして芽が生えてきたことである。

この場面を目撃した科学者たちは目を丸くして、これは驚いたと異口同音に言うだけで、誰一人として科学的に納得できる説明をしようとはしなかった。

だとすれば、われわれが科学と称している学問は根底から検討し直すべき時ではないだろうか？

ユリーゲラーほどの超能力現象ではないにしても、われわれの生活周辺に起きている老いと死、思想と感情、葛藤と対立、闘争等、この根本的で必需的な人生問題に対しては、何等の解決策も与えない学問をもって科学万能主義だけを謳歌してよいのだろうか？

科学は決して万能ではあり得ない。むしろ、科学はいま危険を孕んでいる。このまま進んだ場合、どんな危険な道に迷いこむのか、わからない状態にある。

確かに科学文明は人間に便利さを提供はしたが、一方では巨大な殺人文明をも造っているのである。

科学者はその姿勢を近代科学の先駆者「アイザック・ニュートン」の敬虔な次の言葉から学び直さなければならない。

「この巨大な神の摂理の中で科学者が発見したものは、海辺で一個の貝殻を拾って喜ぶ少年に等しい」

現在、韓国では、数十年前からこのような生命科学である「永遠の生命学」を学ぶ多くの「勝利祭壇」会員達は不思議な“若がり現象”を体験している。常識では納得のいかない神秘的出来事を奇跡だと言ってしまえばそれまでだが、その軌跡の裏には最も科学的で理性に合う妥当な原理が其所に存在しているのである。それがまさに新しい生命の“永生哲学”である。

'三世燈明'の 生命哲学

'三世燈明'とは、前世 現世 来世 三世の生命と靈魂の世界に関する真理と秘密を誰でもわかるように天人が明らかに論じた天の明るい知恵をいう。

言い換えれば、人間はどこから来て、どこへ行くのか？ 人類の歴史上、今まで解けなかった人類の根本と哲学的課題に於ける解答を明快的に提示した新しい生命科学や新しい哲学をいう。

死後靈魂の行方

生きている人間を精・氣・神とに分けてみる如く、人間は古来から自身の未知の姿について靈魂とか、魂とかで表現している。

“人間は果たしてどこから来て、どこへ行くのか”

いわゆる人間を研究対象にしている多くの人たちが、未知の世界を解くた



め生涯をかけて研究してきたが、未だに明快な解決策を出せずにいる。宗教という名で多くの人々を導いている種々の哲学系においても同じことであろうといえる。

あらゆる宗教はそれなりの靈魂観をもっている。人間には靈魂なるものがあって人が死ねば肉体から抜けて、靈魂だけが住む世界に離脱していくと思われるかもしれないが、実際、人間のその本質的な実体は全く違う神的存在であることがわかる。このような霊肉分離と死後来世説は、未開な方便的宗教の成立基盤から始まったものであろう。

仏教では輪廻転生をもって来世を説明している。即ち、前世の因縁により現世に生まれ、現世の業報により来世が決定されるというものである。

この因果応報の原理は人間のみに限らず、あらゆる生命体にも適用するとしており、人間の死後その罪業により蛇になったり、牛に転生したりするが、

牛や蛇でも善行を施せば人間に生まれ変わるという説は果たして真理であるのか？。

キリスト教では、人間は神という絶対者の意思で創造されたのだから、神の御子イエスと信ずるように教えている。

イエスは神と罪人の仲介者として、全人類の罪を背負って十字架で血を流されたので、イエスの血の代償により、イエスを信ずるものは死後天国に昇るというのだと主張している。これも果たして真理であるのか？

そして、この世の終わりにイエスは再臨するが、既には墓の土中で腐敗してしまった肉体や、火葬で煙に消えた人の肉体が再び原状の姿に復活し、再臨したイエスの審判を受けるというのであると言っているが、これも又、論理的でもない非真理ではないだろうか！

その故に、このように各宗教が教理として説明する来世説は、あまりにも

不透明な仮想図に過ぎないだけでなく、各宗派が相反する来世像を描いているので、いくらかでも科学的な思考力のある人であれば疑問を持たざるを得ないのであろう。

一方、唯物論的にみた生死観は更に絶望のものでしかない。

人間は父母の遺伝子を継承して生まれ、一定の寿命が終われば老いて土に埋められ、有機物と無機物に分解され消えてしまうという結論意外に、なにも提示することができないからである。このように生物学的観点だけでみれば、人生は死ぬしかない虚無の存在でしかないと思われることは旧時代の思想かもしれないが、しかし、その実体は全く違う。

“人生は旅人 どこから来て、どこへ帰るのか”

韓国の有名な 流行歌の文句ではないが、果たして人間はどこから来て、どこへ帰るのか？ 多くの哲学者たちがこの問題を解くため生涯をかけて苦心してきたが誰も明快な回答を得た人はいない。

人間はどこから来たのか？ その起源を知らないがため。人間は自分自身について無知であった。無知であったがため行くべき目標を失くし、死後天国説を繰り返してきたのが人類の歴史である。愚かな者にとって人生は旅人である。どこへ行くべきか？ どうすれば生甲斐のある人生になるのかを知らないものだから、旅人のように右往左往し迷っているうちに老いて死を迎

えるようになる。

この果てしない人生に対し、正しい道標となり、確たる人生路を提示した人が歴史上ひとりも現れなかったのである。

人生の本当の起源もまともには知らない者たちが現れては、それぞれ自分なりの人生論を展開して来ただけ、かえって別の方便説を生み出したのみで、かれら自身もどこへ行くのかも知らずに死んでいったのである。

いままで人類が歩いてきた道は人間の根本実体を全く知らずに生きてきた相争と殺生の文化であり、死の津波が押し掛けた道であったのだ。地球村と人類共滅危機が迫ってきた20世紀後半頃、ご運の女神の作用であったのかは判らないが、韓国で出現したある天の人、真人、新人類と呼ばれる「勝利祭壇」の「勝利者」は新時代を開ける新しい学問と哲学を明確に提示している。もし、人間の行くべき目的が何かを判然と見せてくれる人がいるとすれば、目を大きく見開き耳を傾けなければならない。

いままで人間の真の知恵が塞がれていたので、あまりにも当然すぎる事実までむずかしく解釈していたのだ。普遍的な真理と事実は確実であり、その答えもまた簡単明瞭である。

“人間はどこから来たか？

母の胎内から出てきた。”

“人間はどこへ行くのか？

死んで墓の土中に埋められる。”

この事実を否定する者は一人もいないだろう。この明々白白たる事実を人間は全然見えなかったのである。*

次の号に引き続き掲載

Subaru Kan / 新人類文化研究所長

격암유록 新 해설

제107회

桃符神人 도부신인

中興國 중흥국의 대문門 대화문은
始自子丑至戌亥 시자지축지술해로
十二玉門大開 십이옥문대개하고
十二帝國朝貢 십이제국조공일세
華城漢陽松京 화성한양송경까지
寶物倉庫 보물창고쌓였으니
造築金剛石彫城 조축금강석조성은
夜光珠 야광주로 端巖 단장하니
鷄籠金城繁欄 계룡금성찬란하야
日無光 일무광이 無晝夜 무주야를
城內中央大十勝 성내중앙대십승에
四維十勝列位 사유십승열위하니
刹在田田祕文 이재전전비문으로
田之又田田 전자우전전일세

나라가 다시 흥성해서 세계의 중심국이 될 한국의 대화문(하나님과) 하나되고 전 세계가 하나 됨은 자축으로 시작하여 술해(戊亥)에 이르기까지 열두 옥문(玉門)을 크게 열여놓으니 온 세계 각국이 조공을 받자려고 물려오는데 화성(수원)에서 한양(서울)을 거쳐 송경(개성)까지 보물이 창고마다 산더미같이 쌓이느니라. 금강석을 조각하여 축조한 성을 야광주로 단장하니 계룡 금성이 찬란한 빛을 발하여 햇빛이 없어도 밤낮이 없게 되느니라. 그 세계는 밤이 없는 세상이라는 말이다. 성안의 중앙에는 대 십승이 계시고 네 모퉁이에는 여러 선신이 십승을 옹위(擁衛) 하듯이 있으니 이재전전(刹在田田)=목숨을 보

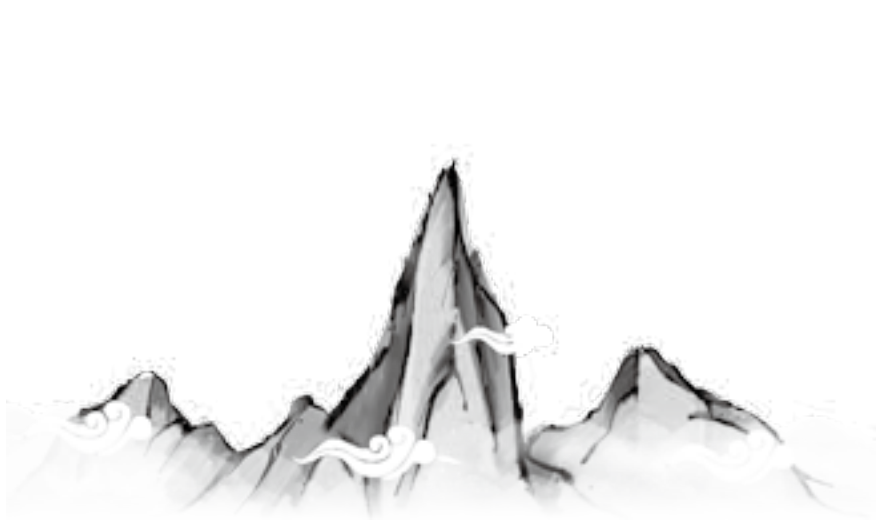
전하는데 이모음은 전전에 있음이라)이라는 비문과 같이 전의 전 전전일세. 양전과 음전을 말하며 육도삼략의 오도 진인과 금운 15진주 정도령을 의미한다.

一百四十四時高城 일백사십사시고성
忠信義士入金城충신의사입금성에
彈琴琴聲 탄금성이 藉藉 지지하니
不知歲月何甲子 부지세월하갑자고
東西金木相合之運 동서금목상합지운
地上仙國福地 지상선국복지로서
開闢以後初有之時 개벽이후초유지시
前無後之長春世 전무후지장춘세라

충신 의사들이 십승 하나님에 계신 금성으로 들어오자 아름다운 거문고 타는 소리가 자자하니 육십갑자가 어떻게 돌아가는지 즉 세월이 어떻게 흘러가는지 모르겠다. 천지가벽하는 중천운은 동과 서, 금과 목이 서로 합입하는 운으로 지상 선국에서 선신이 되어 영생의 복을 누리며 사는 세상이 되느니라. 이는 개벽 이후 처음 있는 시기로서 전무후무한 불사영생하는 봄의 세계가 이루어지느니라.

天上玉京弩弓火 천상옥경노궁화를
檜樹油 감수유에 불을켜서
弓乙仙人相逢 궁을선인상봉하야
不死消息 불사소식다시듣고
風浪波濤 풍랑파도바진 百姓백성

동서금목합운(東西金木合運=목운+금운)으로 지상선국(地上仙國)을 세우느니라



生命線路 생명선로건질적에
粉骨碎身 분골쇄신될지다
不遠千里 불원천리멀다마소
亞宮裏 아궁리를 先察 선찰하야
仙源宮 선원궁을 急급히차자
三峯山下半月船 삼봉산하반월선을
銘心不忘念 명심불망급히타소

천상의 하나님이 계신 곳에서 감나무의 기쁨으로 활에 불을 쬐서 밝히고 궁을 선인들이 상봉하여 불사소식을 다시 듣고 죄악의 거친 풍랑파도에 빠진 백성들을 생명 길로 건너낼 때 내 몸이 부서지고 뼈가 가루가 될지라도 불원천리 멀다 마소 아(亞)자 속의 십승의 뜻을 먼저 살피서 선신의 근원을 급히 찾아 삼봉산하반월선(三峯山下半月船=心) 즉 마음 속에 하루마배 마귀를 이기신 삼위일체의 하나

님(구원방주)을 모시어 구원의 방주를 잊지 말고 급히 타소.

聖運論 성운론

때되었네 仙運 선운와서
天上諸仙出世 천상제신출세하니
三之諸葛八韓信 삼지제갈평한신이
三八靑林運 삼팔청림운기바더
十勝大王 십승대왕 우리聖主성주
兩白聖人 양백성인나오시고
彌勒世尊三神大王 미륵세존삼신대왕
三豊道師出現 삼풍도사출현하고
西氣東來白虎運 서기동래백호운에
靑林道士 청림도사나오시고
木兔再生鄭姓 목토재생정성으로
血流通中 혈류도중 우리聖師성사

라 금운(白虎運)을 받아 청림도사로 나오시고 목토(木兔=목운)가 정도령으로 거듭나니 괴눈물 흘리는 가운데서 완성의 무극대도를 깨치고(血流通中=血遺島中 하나님의 피가 전해진 해우반도의 사람들 중에서 나오신) 우리의 거룩한 스승으로 나오시고 계룡, 삼월(辰=춘말), 진(震=순진의 진), 천강(天강=북두칠성)이신 삼

鷄籠三月震天雷 계룡삼월진천강에
三碧真人 삼벽진인나오시고
金鳩木兔雙弓理 금구목토쌍궁리로

때 되었네. 중천운이 들어 신선의 운이 음에 따라 천상의 여러 선인들이 세상에 나오느니라. 선운은 중천운이며 선도는 유불선 합일의 선도이다. 삼팔 목운으로 부터 나온 청림도사(정도령)의 기운을 받아 제갈공명, 한신과 같은 뛰어난 선비와 대장군들이 세상에 나오느니라. 십승 대왕 우리성주 양백성인 나오시고 미륵세존이며 삼신대왕이신 삼풍 도사가 출현하고 하늘의 운이 서기동래(西氣東來)함에 따

박명하 / 고서연구가
myunghpark23@naver.com
010-3912-5953

당신을 영생의 세계로 안내하는 신문

성금계좌 : 우체국 103747-02-134421 예금주 : 이승우

승리신문은 독자님들의 정성어린 성금으로 만들어집니다
전국 각지에서 성금을 보내주신 분께 감사드립니다

승리신문

1990.3.3 등록번호 다 - 0029

발행인 겸 편집인 김충만

본지는 구세주(정도령, 미륵불)께서 말씀하신 사랑음이 실제를 죽지않는 원리(영생학)를 누구든지 쉽게 배우고 실천할 수 있도록 소개하여 질병과 죽음이 없는 개벽된 세상을 만들고 진정한 평화의 세계를 구현하는데 기여함을 목적으로 발행됩니다.

경기도 부천시 소사구 안곡로 205번길 37
우 422-826



광고 및 구독신청
전화 032) 343-9985

FAX 032) 349-0202

홈페이지 www.victor.or.kr

본지는 신문윤리규정 및 그 실천요강을 준수합니다.